

## 平成30年度 身近な教育委員会・教育懇談会

教育委員会室から外に出て、学校等で開催する「身近な教育委員会」及び、区民や保護者と教育問題について話し合う「教育懇談会」を下記のとおり実施いたしました。

### 記

日時：平成31年2月4日（月）18時30分～20時30分

場所：教育支援センター研修室

概要：第1部 身近な教育委員会

○テーマ

「板橋区コミュニティ・スクールの導入に向けて」

第2部 教育懇談会

○グループ熟議

想定①：「子どもの学力向上」について

想定②：「授業に関わるSOS」について

想定③：「キャリア教育に係る人探し」について

想定④：「地域との協働」について

○グループ発表

※第1部の内容を受け、グループごとに想定①～④を割振って、熟議・発表を行いました。

※発表の要旨は、次ページ以降のとおりです。

参加者：125名

（内訳）保護者等 56名

地域コーディネーター等 48名

教育長・教育委員 5名

中川修一教育長 高野佐紀子教育長職務代理者

青木義男委員 松澤智昭委員 上野広治委員

小・中学校代表 2名

田口洋子常盤台小学校長 宮田正博上板橋第二中学校長

教育委員会事務局関係者 14名

## 平成30年度 教育懇談会 グループ発表要旨

### ◎ 各班の発表内容 ※全12班のうち、4班が発表（想定ごとに各1班）

#### 【A班】想定①：「子どもの学力向上」について

ケヤキ小学校では、全国学力学習状況調査の結果を受け、子どもの学力が低下していることが課題となっている。そこで、学力向上の取組の一環として、**地域や保護者の力を活用して、学力向上を図る**ことができないか、コミュニティ・スクール委員会にて、校長先生から提案があった。

その際に、授業以外の取組で、学習時間を確保したいと校長先生は考えている。

※現在、朝・放課後学習は行っていることとする。

- 学習する場所を確保するため、学校の図書室を上手に活用する
- 地域の方にも図書室に来てもらえるような環境づくりを行う
- 子どもは図書室に行けば、そこで学習できるようになる
- ただし、子どもだけでは学習することに限界がある
- そこで、子どもの学習を見てあげる地域の方が必要になる
- 図書室に限らず、地域の方が出入りできるような環境づくりが必要になる
- 地域の方にとってのコミュニケーションの場となっても良い
- 地域の方が子どものサポートを行うことで、自然と学習時間が増えるのではないかと提案する
- 普段の授業でも、先生が授業を進めやすくなるよう、地域の方にサポートを行ってもらう
- 先生や子どもの話を聞いてあげられる人を探し、増やす
- 絶対的な学習時間は増えなくても、サポートを行うことで、質の高い授業ができるようになる

#### 【D班】想定②：「授業に関わるSOS」について

モミジ小学校の4年1組は2学期以降、授業中に席から離れ、学習に集中できない子どもが数人いる。担任が注意してもなおらない。クラス全体も落ち着かない雰囲気があり、授業の進行にも支障が生じるようになってきた。児童の保護者を学校に呼んで話をしたいが、両親共働きで時間がとれない。担任から**子どもが立ち歩かないように見守ってくれる人が欲しい**という訴えがあった。教員だけで校内体制をとることが難しいことから、コミュニティ・スクール委員会に議題として取り上げてもらった。

- 学校内、地域でどのような形で支援をすると良いのか話し合った
- そもそも、ただ支援をするだけで良いのか
- 地域の方がたくさん学校に入ること、どのように子どもに影響を与えることができるのか
- 学習に集中できない子どもは、どのような理由で席から離れてしまうのか
- 席を離れることが悪いと思っているのか
- 先生から注意を受けることで、悪いと気付いているのか
- 悪いと気付かず、先生を独り占めすることができて嬉しいと思っているのではないのか
- 支援の際に、心理学の専門の方など、知識を持った方を入れるのも重要だと思う
- 親同士、先生同士、先生と地域など、子どもの情報共有が必要だと思う
- 様々な想定をしたうえで、サポート担任など、支援体制をつくるのが重要だと思う

## 【G班】想定③：「キャリア教育に係る人探し」について

カエデ中学校では、毎年2年生のキャリア教育で、職場体験学習の前に、様々な職業人を学校に招き、職や仕事について、理解を深める授業を行っている。今までは、カエデ中学校の卒業生に限定して依頼していたが、**職業の幅を広げたい**という学年の先生の思いもあり、地域の特色を生かした職業や生徒の関心が高い職業にも目を向けて、依頼したいという話しになった。しかし、**先生には情報がない**ため、コミュニティ・スクール委員会の中で議題にしてもらい、ヒントを得ようということになった。

- アンケートを行い、子どもが何を知りたいのか、どんな職業に就きたいのかを把握する
- 地域には様々な会社があり、病院や工場などと密接な関係もある
- より地域のことを知ってもらうため、地域から積極的にアイデアをもらおうと良い
- 実際に人を呼ぶ際には、様々なネットワークを活用する
- 学校を取り巻くネットワークには、地域、同窓会、PTA、先生同士などがある
- 例えば、保護者全員に募集をかけてみると、幅広い仕事を持っていることが分かる
- また、PTAだけでなく、小・中のP連から情報を得ることもできると思う
- 「つながり」、「つて」を考えるうえで、一番大事なのはCS委員みんなが仲良くすることだと思う
- そうすることで、紹介の輪や温かいムードが広がり、人も探しやすくなるのではないかと思う
- キャリア教育専門の出前授業など様々な手段があるので、諦めずに探していくことが大事だと思う

## 【K班】想定④：「地域との協働」について

ウメ中学校では、学校周辺に空き缶やたばこ等のポイ捨てが多く、生徒や教員が清掃活動を行っているが、一向にきれいにならず困っている。

校長先生は、その対応策として、**地域と連携して「清掃強化月間（週間）」を設けたい**と思い、コミュニティ・スクール委員会に提案した。

どうすればポイ捨て等がなくなり、学校周辺のゴミを減らすことができるのか、アドバイスが欲しいという内容だった。

- 想定に対し、現実的には、きれいな学校が多いという印象がある
- ただし、植え込みがあると、そこにポイ捨てされることが多いようだ
- 学校自体ではなく、学校周辺の環境による要因が大きいと思う
- 地域では、清掃活動を行っているところが多い
- やはり環境づくりが重要であるので、
  - ①きれいな環境をつくり、維持する
  - ②清掃活動を行っている子どもの様子が見えるようにする
- きれいな環境や、子どもが頑張っている姿を見ると、自然とポイ捨てする状況もなくなると思う
- 小学校によっては毎週の朝礼の後、子ども、先生と地域の方で清掃活動を行っているところもある
- こうした学校の周辺には、ゴミがほとんどない
- 子どもにも清掃が習慣付いていて、登校の際にゴミを見つけると、自発的に拾うほどだ
- 一方で、ポイ捨てよりも動物のフンが問題となることが多いということだ
- 犬であれば飼い主に訴えることもできるが、猫であるとうしようもない部分もある

## ◎ 教育長の講評

- 本日は遅い時間まで、本当にありがとうございました
- 各班で、大変熱い熟議が繰り広げられたと思う
- 改めて、人間のモチベーションは、「楽しい」、「愉快」、「幸せ」からスタートすると思う
- 「熟議」という言葉は硬いが、お互いに意見を言い合えるような場があることが大事だと思う
  
- グループ発表の中で、CS委員が仲良くすることが大事だという話があった
- まさに、お互いに反目し合っているようでは、子どものために良い学校を創ることはできない
- アクティブ・リスニング、相手の話に首をかしげるのではなく、頷き、相槌を打つことが大切だ
- 気持ちの良いスタートが切れるよう、お互いに様々な意見を出し合える環境ができるよう願っている
  
- ネットワークを活用しようというお話もあったが、地元のことは地元の方が一番よく知っている
- 校長先生・副校長先生や先生方も知らないようなことも知っていて、人脈もできている
- また、地元の企業も良い試みをしていただいている
- 地域には、何かお手伝いがしたいと思っても、アプローチの仕方が分からないという方も多いと思う
- こうした方の発掘には学校はもちろんだが、やはり地域の方のお力を借りる発想が重要となってくる
  
- 学校に、「何かやってください」というスタンスではなく、「私がやります」というスタンスが肝心
- そうすれば、自然と良いアイデアが生まれ、良い環境になり、笑顔が笑い声が広がっていく
- やって楽しいという気持ちになると本当に良いものが生まれてくる
  
- 班の中で話が出たが、地域の方ができるとをやっていただけるとありがたい
- 地域の方は先生本来の仕事を担えないが、先生でなくてもできることはやっていただけるとうれしい
- 国が教員の働き方改革を進める中、学校の先生がやらなくても良いことを提案してきている
- 例えば、放課後・夜間に子どもがコンビニで万引きした場合、先生が緊急対応するべきなのか、これまでは当然のように学校でも対応に当たってきたが、果たして学校の役割なのかということを考え直す機会が来ている
  
- 今日のような建設的な話し合いができることは本当に素晴らしいと思う
- コミュニティ・スクールの熟議は、決して難しいことではない
- たくさんの「私ならできる」、「あなたならできる」というアイデアを、最終的に校長が判断していく
- その結果として、まさに夢のような学校ができる
  
- 今日のような機会を、教育委員会でもまた持ちたいと思う
- 教育委員会も、もっと学校や地域の意見を聞かないといけないと思う
- トップダウンで進めることも必要だが、皆さんからのご意見を大切にしていくことも重要なことだ
  
- 最後に、とても大事にしている言葉がある
- 「地域は先生」、「地域は教室」、そして、「地域は教科書」と常々思っている
- ネットワークのお話と共通するが、地域には学ぶべきところがたくさんある
- 体験や経験といったものが、子どもの学びに大いに働く
- 今日は125名の方が一同に集まり、熱気に包まれた本当に有意義な時間を共有することができた
- 引き続き、板橋の子どもたちのためにお力添えをいただきたいと思う
- 本日は遅い時間まで、本当にありがとうございました